

2014年（平成26年）8月25日（月曜日）

# ヒマワリの花を「収穫」

## 釈迦内小 全校児童 搾油しイベントなどで販売へ



サンフラワープロジェクトに取り組む大館市釈迦内小（三浦栄一校長）の全校児童271人が24日、食用油を製造するた後、種から搾油して食用販売して地域一体となつた活動を外部に広く発信する。

プロジェクトはヒマワリの栽培を通じて地域活性化に向けた活動。同校では全校児童によるヒマワリ栽培が今年で4年目を迎え、この春は学校周辺5カ所計1畝に種をまき、ヒマワリを育ててきた。

この日は、秋に発売する食用油製造のための収穫作業。地域住民の協力を得て児童たちがそれぞれ畑に分かれ、鎌やはさみで種を収穫し、乾燥や種取り、搾油と進められる（大館市の釈迦内小で）

みを使って花の部分の収穫した。

同校によると、今年の花は例年に比べて小ぶりというが、児童の顔より大きな直径約30センチの花もあり、子どもや保護者、住民たちが収穫の喜びを味わっていた。

ヒマワリの花は同校に運び込まれ、乾燥や種取りといった今後の作業のため、軽トラの荷台から下ろされ、校内に搬入された。同校は、プロジェクトに賛同する住民がヒマワリの種を持参するなど、集荷施設の役割も果たしている。

種は小坂町の業者で搾油され、食用油「釈迦内

向陽油」に仕上がる。商品は、第42回本場大館きりたんぼまつり（10月11日～13日・大館樹海ドーム）や大館圏域産業祭（10月25、26日・同）、地域の文化祭などでの販売が決まっている。

6年生の木村捺美さん（12）は「夏の暑い時に一生懸命に草取りをしたこともあり、たくさん収穫できてうれしい。地域の人や大館を訪れる人に油を売り、笑顔を届けた」と話した。

また、三浦校長は「子どもたちは自分の思いを込め、楽しみながら作業に取り組んでいる。商品が完成すると収穫の喜び

をさらに実感するだろう。住民のみなさんの協

力もあって、児童たちはコミュニケーションを図ることができている」と話していた。